

氏名	赤木 大介
学位	博士 (英語学)
学位記番号	
学位授与年月日	
審査研究科	外国語学研究科
論文題目	Pete Seeger, 20 th Century American Singer: His Music Activity for the Betterment of Society
論文審査委員	(主査) 大東文化大学教授 Jeffrey Johnson (副査) 大東文化大学教授 北林光 (副査) 大東文化大学教授 大月実 (副査) 明治大学教授 菅啓次郎

博士論文 審査報告

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

2. 研究の対象・目的・方法

本研究は、アメリカ人歌手であるピート・シーガーと社会問題に対する彼の音楽活動についての質的研究を行っている。シーガーの音楽活動による社会問題への取り組みは1940年代の労働運動、1960年代の市民権運動、そして非核運動、平和思想、また後年では環境問題など多岐に亘っている。彼の音楽活動による影響力は多大なものとなり、マッカーシズムによる赤狩りでブラックリストに名前が記載されて主要なメディアから姿を消した時期があった。しかし、シーガーは再び評判を取り戻し米国社会への貢献に対して再評価を受けることとなる。本研究では、彼の音楽活動が20世紀のアメリカ社会に与えた影響についての考察を行っている。調査質問としては、シーガーは社会問題の改善に対する取り組みを、音楽活動を通してどのように行ってきたのか？という観点と共に、歌い手、歌唱、楽曲 (Singer, Singing and Songs) の3つの枠組みを提示し、彼の長年行ってきた活動を多面的に分析している。歌い手の枠組みについては、シーガーが他界した際に載せられたニューヨークタイムズのオンライン記事に対する千件以上の読者の投稿から、新聞社が選択した58件のコメントに対し

て主題分析 (Thematic analysis) を用いている。歌唱の枠組みについては、1963年のコンサートDVD資料を材料にAuslanderによるパフォーマンス分析 (Performance analysis) を基にシーガラの歌唱方法と彼の大きな特徴でもある聴衆を歌唱に招く手法についての考察をしている。3つ目である楽曲の枠組みについては、コンサート会場で収録された5つの録音音源に収録されている139種類の楽曲から分析対象となる59曲を厳選し内容分析 (Content analysis) を用いて歌詞に込められている目的や意図についての考察を行っている。

3. 論文の構成、内容

赤木氏の博士号対象論文『Pete Seeger, 20th Century American Singer: His Music Activity for the Betterment of Society』の構成は次の通りである。

Chapter 1: Introduction

Chapter Overview

Biographical Background

Folk Music

Chapter Summary

Chapter 2: Review of the Literature

Chapter Overview

Types of Literature Consulted

Chapter Summary

Chapter 3: Research Method

Chapter Overview

Description of the Research Plan

Chapter Summary

Chapter 4: Findings

Chapter Overview

The Singer Framework

The Singing Framework

The Songs Framework

Chapter 5: Discussion

Chapter Overview

Discussion of the Research Findings

The Singer Framework
The Singing Framework
The Songs Framework
Additional ideas about Seeger's legacy
Chapter Summary
Chapter 6: Conclusion
Chapter Overview
The Research Question and Hypothesis
The Research Plan
The Findings
The Significance of This Study
Recommendation for Further Study

第 1 章では序論としてシーガーの青年期から音楽家になるまでの過程、そして基盤となる音楽活動への取り組みの考察を行っている。またシーガーの属しているフォーク音楽での民謡としての伝承機能をもつ歴史、そしてアラン・メリアムが「音楽人類学」で触れた楽曲歌詞の特性、また機能と用途を踏まえたフォーク音楽の歴史、さらに商業目的をもつ音楽のあり方について触れ、シーガーの活動における音楽の役割を分析している。第 2 章では、以下の 7 つの項目で参考文献と先行研究の紹介を行っている。1) 伝記文献からの情報、2) 自伝や本人による執筆文献、3) 対抗社会に関連した楽曲を収集した文献、4) フォーク音楽と社会運動に関連した文献、5) フォーク音楽と社会学、音楽人類学、音楽民族学に関する文献、6) 楽曲の質的研究に関する文献、7) 質的分析の手法に関する文献。特に第 6 項の先行研究では、Knupp と Schnell が行ったフォーク楽曲に対する質的研究を紹介しており、本研究での分析方法の基盤として参考とされている。第 3 章では、研究の目的と方法論について上記 2. 研究の対象・目的・方法で触れている 3 つの枠組み歌手、歌唱、楽曲 (Singer, Singing and Songs) に対する質的研究の具体的な方法と理論について説明がなされている。第 4 章では研究結果が述べられており、歌手の枠組みに関しては、ニューヨークタイムズのオンライン記事に対する 58 件のコメントにおける価値観に対するコーディング作業を行った。さらに Goldberg の人間関係心理におけるカテゴリー分類を行うことにより、シーガーの性格分析を行った。コメン

トの具体的な内容としては、シーガーと実際に会った際の体験やコンサート会場での体験が主に綴られており、その中でシーガーの通常の振る舞いとステージ上での行動に一貫とした信念の表れや性格が考察できる。歌唱の枠組みでは、ライブパフォーマンスの DVD 資料を視聴し、Auslander によるパフォーマンス分析 (Performance analysis) を基に声に関わる要素 (声量、声質、テンポ感)、身体に関わる要素 (動作、ジェスチャー、顔の表情、使用楽器)、またシーガーの大きな特徴として追加分析された観衆参加の助長項目 (聴衆の歌唱参加、聴衆のハーモニーへの参加、歌詞を事前に伝えることによる聴衆参加の補助) に対しての分析がなされた。シーガーのパフォーマンス技法には、楽曲に込められた物語や意図をよりの確に、印象深く伝えるための手段としての機能が見られた。また聴衆と歌唱側の境界線をなくし、フーテナニーの手法を用いた共同歌唱を行うことにより、団結力や共同体としての一体感を促す歌唱機能が確認された。そして楽曲の枠組みでは、59曲の歌詞に対する楽曲歌詞の主旨に対するコーディング作業を行ない、グラウンデッド・セオリー・アプローチによる内容分析を行なっている。楽曲で扱っている内容は様々で、シーガーが取り組んできた社会問題の題目である、黒人市民権運動、反戦運動、反核運動、環境問題を中心に事件となった出来事について楽曲を通して学習、記憶して後世に歌い継いでいるもの、また欧州からの移民事情を語った楽曲や労働組合で歌われた団結力を助長する題材が確認された。第5章では研究結果からの考察として第4章で分析を行った3つの枠組みを1つの大きな要素として捉え、歌い手の枠組みで見られたシーガーの性格が歌唱の枠組みでどのように機能しているか、また聴衆の歌唱参加を助長する手法とフォーク音楽を使用した政治活動家としての彼の資質についての考察をしている。また楽曲歌詞の持つ言語的特徴とその意図についても楽曲を通した聴衆の教育活動としての機能があり、大学でのコンサートによる若い世代への教育、童謡を用いた児童へのフォーク音楽普及活動、また外国語歌詞楽曲による人種を超えた共同体としての取り組みなどについて分析がなされている。さらにこの章では一例として彼の代表作でもある反戦歌「花はどこへ行った？」での言語翻訳について分析をしている。第6章では結論として前章までの概要と調査質問に対する考察、また調査結果としてシーガーの取り組んできた音楽活動の手法や思想として引用された“鎖の繋がりにおける1つのリンク”という信念に触れている。またこの研究の重要性としてシーガーの長年の取り組みが商業を意図したものではなく楽曲に込

められた意図を伝達する手段として機能している項目をまとめている。さらに今後の課題としては、質的研究を用いたより詳細な調査研究、シーガーターの関わった各社会問題と関連楽曲の緻密な分析、楽曲歌詞研究分野への貢献について述べられている。

4 審査会における意見

主査のジェフリー・ジョンソン教授の司会によって質疑とコメントのやりとりが行われた。副査教授からは赤木氏の論文は米国文化の歴史におけるシーガーターの影響について優秀な試みを用いて研究が行われている。また画期的な方法で客観的にデータの視覚化とその意図を分析している。研究の手法としては他の研究者にも有益な内容であると評価がなされた。他の教授からは、「本論文は、歌手シーガーターの諸側面を明らかにしたという意味で、また今後の研究に繋がるデータを多数提供したという意味でも、たいへん意義あるものである。」との指摘が成された。他の教授からは、シーガーターの移民問題の取り組みについての質問があり、シーガーターの配偶者が日系アメリカ人であったこと、また様々な人種の人権問題への取り組みがあった点について、また Goldberg のカテゴリー分類についての提案」についての指摘が成された。

結論

以上の審査内容、評価に基づき、本論文を審査対象とする学位論文審査委員会は、全員一致をもって、本論文は博士（英語学）の学位を授与するに値するものと判断し、ここに報告する。